

早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書 (Web 公開用)

申請者 (ふりがな)	石川 律 (いしかわ りつ)
所属・資格 (※学生は課程・学年を記載。卒業生・修了生は卒業・修了年月も記載)	人間科学研究科修士課程 2 年
発表年月 または事業開催年月	2023 年 10 月
発表学会・大会 または事業名・開催場所	日本認知・行動療法学会第 49 回大会
発表者 (※学会発表の場合のみ記載、共同発表者の氏名も記載すること)	石川 律・姜 来娜・嶋田 洋徳
発表題目 (※学会発表の場合のみ記載)	行動活性化療法が抑うつへの低減に及ぼす影響に対する神経生理学的観点からの文献展望
発表の概要と成果 (抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。)	
<p>【目的】 本研究では、行動活性化療法において神経生理学的変化を扱った研究について概観し、行動活性化療法の手続きが抑うつに及ぼす影響を神経生理学的観点から整理することを目的とした。</p> <p>【方法】 論文検索には、文献データベースとして「PsycINFO」、「PubMed」を用いて電子検索を行った (2023 年 5 月 3 日時点)。検索ワードとしては、「“behavioral activation” AND “biological”」および「“behavioral activation” AND “physiological”」を用いた。その結果、合計 241 編の文献が収集された。収集された 241 編のうち、重複しているものを除外し、(a) 行動活性化療法を行っていること、(b) うつ病の患者および抑うつ程度が高いものを対象としていること、(c) 神経生理学的指標を扱っていること、という 3 つの基準を満たす論文を 3 編抽出した。さらに、文献抽出を行う過程のハンドサーチから適格基準を満たす論文を 7 編追加した。その結果、計 10 編の論文を分析の対象とした。なお、データ抽出にあたっては、PRISMA 声明 (Moher et al., 2009) にしたがった。</p> <p>倫理的配慮 該当しない。</p> <p>【結果・考察】 対象となった 10 編の論文を概観し、研究における状態像、研究デザイン、用いた指標、手続き、変化した神経生理学的指標の観点から整理した。その結果、抑うつに対する生理的指標と、報酬知覚に対する生理的指標、身体的健康に対する生理的指標の 3 つのカテゴリに大別することができた。</p> <p>本研究においては、行動活性化療法においては、これまで抑うつや報酬知覚の神経生理学的観点からの測定方法として、fMRI や血液といった指標が用いられてきたことが明らかになった。特に、報酬知覚に対する生理的指標のカテゴリにおいては、fMRI による測定によって脳機能に変化がみられたことが明らかになった。これまでのうつ病の生理的指標として唾液中のコルチゾール濃度や心拍変動が用いられている (Bate et al., 2023)。したがって、本研究の結果に加えこれらの指標を用いて行動活性化療法の効果の測定を行うことによって、その変化を従来とは異なる観点から記述することが可能になり、行動活性化療法の効果に影響を及ぼす個人差変数について検討できるようになると考えられる。</p>	

※無断転載禁止